

「(プログラム名称を記入) 参加報告書」

京都大学文学部 2 年 許 蔚欣

前期にかけて授業でフィリピンおよび移民のことを学び、そして毎週 JFC の学習支援のボランティア活動をしてきた。このフィリピン研修は、いわゆる前期で勉強していたことを実際フィリピンに行くことによって自分の目で確かめる研修であり、支援してきた子供たちの故郷はどのような国なのかを見してみる研修でもあると思う。

フィリピンからの移民の中に技能実習生が大きな割合を示しているため、研修の内容も技能実習制度に関わるものが多かった。日本企業からの依頼に応じて技能実習生を集めるエンプロイメントエージェンシーに訪問し、業界の実態の話聞き技能実習生の日本語の授業を見学した。また、フィリピン人の「得意分野」は介護ということもあり、外国人の介護労働者の実態も聞いた。一方、フィリピンの政府機関である CFO という在外フィリピン人委員会に訪問した。CFO の運営の流れを紹介してもらい、そして子供向けの出発前のカウンセリングイベントを見学し、来日する予定の日本人配偶者に向けて日本について発表した。その他に、フィリピンの中学校と大学に訪問し、女性のための NGO、介護施設とアニメスクールにも訪問した。

この内容が盛りだくさんのフィリピン研修に参加した後、多様な経験をし物事の見方も多様になったと感じた。フィリピンに行く前に、技能実習生や移民に関して授業や論文といった学術的な知識しか得られなかったが、実際フィリピンに行き、様々なステークホルダーと話し、今までと違う視点で物事を見るのが出来た気がする。私は日本語を習得しないと日本で生活することはほとんど不可能だと思い、技能実習制度の語学基準に対して肯定的な意見が持てなかった。しかし実習生の日本語授業を見学した後、実習生の日本語教育に対して異なる見方を持つようになった。今まで日本語学習者として考えていたが、留学生の日本語と技能実習生の日本語が違うことに気づき、留学生の日本語教育と実習生の日本語教育も違うはずということに気付いた。さらに、日本で週に一回 JFC に会っているため、フィリピン人移民のイメージは偽装結婚を含む結婚移民が圧倒的に強かった。技能実習生に会い、その中に既婚者もいれば日本で技術を身につけた後帰国して自分の店を出したい人もいたことがわかり、今まであまり具体的なイメージがつかめなかった出稼ぎ移民についていろいろと把握できたと思う。

一方、日本では CFO にあたる政府機関がなく、CFO に対して不思議と感じた。CFO の仕事の流れを紹介してもらい、カウンセリングイベントを体験し、ビザ申請人との面談の要点も紹介してもらい、フィリピン側も何も考えずに国民を送り出しているわけではないと強く思った。国民の海外生活の困難やメンタルの面を考え、カウンセリングを行うということもあり、政府機関の仕事だと考えられなかった。カウンセリングイベントに参加し、私は自分の最初の留学生生活を思い出し、このようなこれから海外で生活していく人のメンタルを考えて企画したイベントは将来いつか役に立つのではないかと思った。このような企画はとり入れる価値があると思い、私も留学前にこのような企画に参加したらよかったと痛感した。

総括として、今回のフィリピン研修に参加することで、フィリピンという国に対する認識が深まり、同じ移民という話題において以前と違う見方で見ることができ、一個人として成長したと感じた。そして外国人として日本で生活することを考え直す機会を与えてくれた。